

# 経営比較分析表（平成28年度決算）

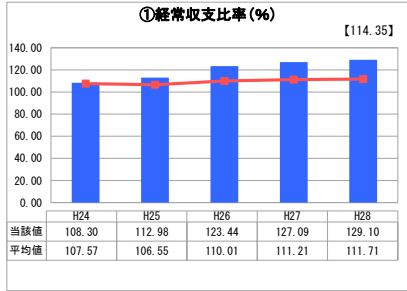
石川県 志賀町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家産料金(円)	
-	84.93	89.82	3,448	

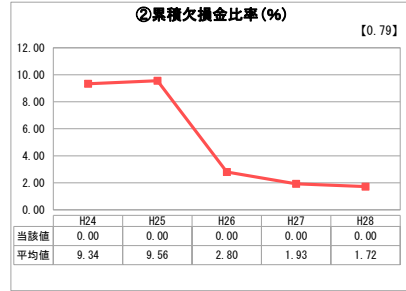
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
21,247	246.76	86.10
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
18,963	122.47	154.84

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成28年度全国平均

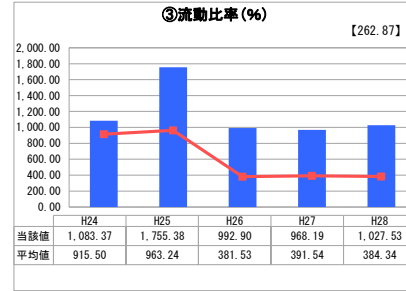
## 1. 経営の健全性・効率性



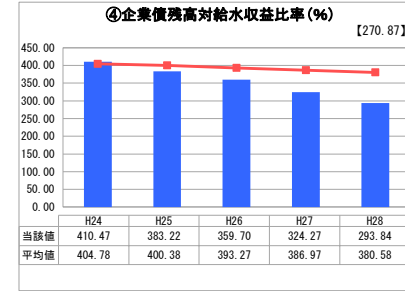
「経常損益」



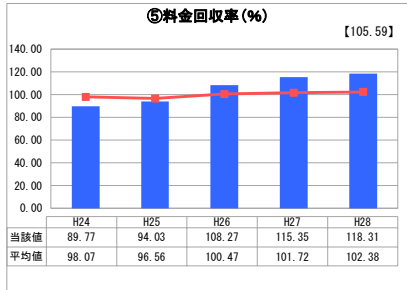
「累積欠損」



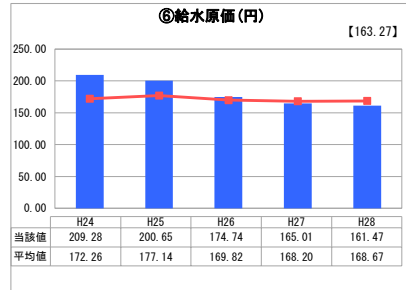
「支払能力」



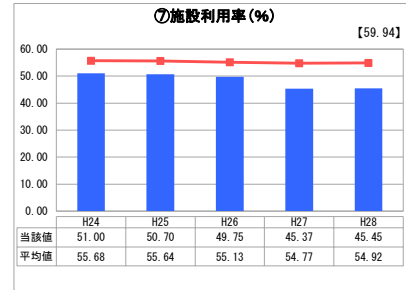
「債務残高」



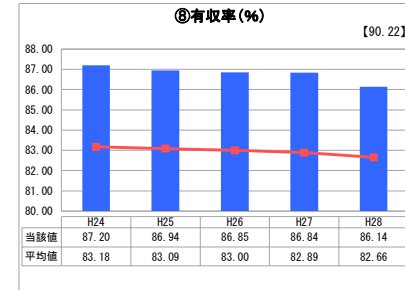
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

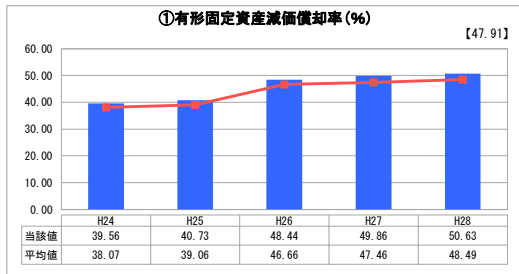


「施設の効率性」

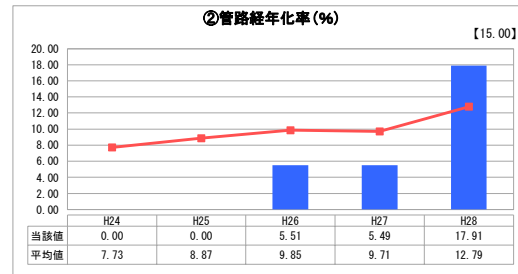


「供給した配水量の効率性」

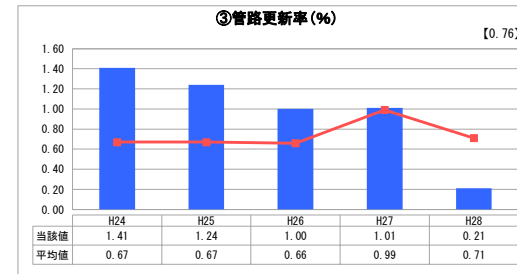
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支は黒字傾向であるが、給水収益も減少傾向であるため、一層のコスト削減を目指す。
- ②累積欠損金は生じていない。
- ③流動比率は100%を超えており、また類似団体平均や全国平均とも比べて高い数値であるため、支払い能力は十分である。
- ④自己資金を活用し、企業債の発行を控えていたため、企業債残高は年々減少していき、そのため、この指標も低く推移していく。
- ⑤現状、給水にかかる費用を給水収益で賄っているが、今後の給水収益の減少を鑑み、一層のコスト削減に取り組む。
- ⑥近年は、全国平均値や類似団体平均値に近い数値を示している。今後も経常的な経費削減に取り組んでいく。
- ⑦遊休資産や非効率施設の統廃合を推進し、一層の施設運用の効率化を図る。
- ⑧有収率向上のため、配水管の漏水調査を行う必要がある。

### 2. 老朽化の状況について

- 耐用年数を経過する老朽管が、年数経過により年々増加していく傾向にある。今後は平成29年度に策定する新水道ビジョンを踏まえ、計画的に毎年、老朽管を更新していく予定である。
- また、浄水場や配水池等の耐震化に順次取り組み、水供給の安定化を図る。

## 全体総括

年々、給水収益が減少傾向にあるため、黒字収益を維持するために維持管理コストの削減に努めていく必要がある。

投資的業務の財源は、主に損益勘定留保資金を使用し、老朽管の更新や施設の統廃合、耐震化に費やしていく予定であるが、経営状況を考え、企業債の借入も視野に入れていく必要がある。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。